

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2002. 10. 2

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）倉橋（西大寺南）松本（国府小）津下（国府小）福井（伊島小）

先週はサイエンスフィールド工事のためお休みでしたが、広い駐車場がアスファルトできれいに舗装されていて驚きました。

【鳴き砂】 安原・石浦

安原先生がサイエンスフィールドに持ってこられた鳴き砂をわけてもらいました。島根県仁摩町の琴ヶ浜のものです。乳鉢に入れ乳棒を押しつくとキュッキュといういい音がします。顕微鏡で見るときれいな石英の多いことがよく分かります。

【パチパチ・飛ぶ紙とんぼ】 倉橋

高知県トンボ王国からのお土産の第2段！ パチパチというのはいわゆる『ピョンがえる』というゴムで飛び上がる昔からある紙のおもちゃ。飛ぶ紙トンボも折り紙飛行機の『つばめ』とよく似た作り方できれいに滑空します。

【かつらバージョンアップ】 松本・津下

風船とガムテープで作る劇用のかつら。ますます改良されて作りやすく、ぴったりフィットで脱げません。素晴らしい！

【バブ爆弾ゲーム】 津下

ペットボトルにお湯と入浴剤のバブを入れて風船でふたをし、破裂するまでしりとりをする。バブが飛び散らないのがいい。

【ドラゴンフルーツ】 高松

黒い袋を取りだし外から触ってみて、これは何でしょうか？ビニール製のオモチャ？いえいえ。では中を見ないように手を袋の中に入れて触ってみましょう。植物？さあどうでしょうか。このよく分からないものを人に伝える文章を書いてみましょう。「ピンク色のラグビーボールのような形で葉っぱがついて…」これは植物です。では、花でしょうか？実でしょうか？球根でしょうか？実は、『ドラゴンフルーツ』という実です。半分に切って食べてみましょう。ゴマをまぶしたように小さなタネがいっぱいあって、イチジクのような食感です。これは元々はサボテンで食べられるように改良されたのだそうです。一連の持っていくようがよく考えられていてミニ総合学習にいいかも。

【弁当のフタで作る立体模型】 福井

青少年のための科学の祭典2002からのネタ。山口県の松村浩一先生が考案された弁当箱のフタを使った立体地図です。松村浩一先生は身近な材料を使った実験道具を作る名人で、以前紹介した全反射実験器『いないいないばあ』では科学技術振興財団理事長賞を受賞しています。さて、今回の立体地図ですが、弁当箱のフタ（パック材料屋で14円位）に地形図の等高線を1枚ずつ書き込んでいくという簡単なやり方ですが、見事に3Dになり、見る角度によっていろんな景色が見られます。

